

今年の北国の冬は早く、十月中の初雪がそのまま解けず根雪になったところもありました。ただ昨年までは温暖化なのか一部で豪雪になるが、札幌ではどちらかというとな暖冬少雪の傾向です。雪が少ないことは、生活するものにとってはありがたいのですが、昼間解けた雪が夜になると凍ってしまいます。転倒注意報が出されるくらいです。吹雪のホワイトアウトも恐ろしいのですが、このツルツル路面も命がけの怖さです。車は止まらない。ものが見事に足を取られて転倒して骨折して救急車で運ばれる。骨折しなくても打撲傷は当たり前だから、見事スッテンコロリンを目撃しても大丈夫のようなら、出来るだけ知らんぷりを装うのが冬の札幌のエチケットのひとつです。

お年寄りにとっては、特に交通量の多い横断歩道などは命がけの歩行になる。

冬のある日、病院帰りなのか一人で老婆が横断歩道を渡り始めた。おそるおそる一歩ずつ渡り始めたが、道の真ん中でとまってしまった。進めない。信号が瞬き始めた。おばあちゃんは、突然四つん這いになってハイハイで進み始めた。必死の行為です。

その時です。一番前に停まっていた車の運転席から一人の若者が飛び出して来て、おばあちゃんを助けようとした。身体を持ち上げようとした瞬間に、足を滑らせて一緒に転んでしまった。信号は赤に変わった。しかし、止まっていた車から何人かの人たちが降りてきた。ある人は後続の車に合図して、ある人は二人を抱きかかえた。着ているジャンパーを脱いで路面に敷いた人もいた。一人が、滑り止め用の砂袋を持ってきて撒いた。黒い斑点のある横断歩道を一塊の集団が、ゆっくりゆっくりと渡り始めた。渡り終わると、おばあちゃんはただただ手を合わせてみんなに頭を何度も下げた。そして何もなかったように停車していた車の群れが動き出していった。